

10年後の加茂地域の農地を担う営農組織を目指して

～先進地視察を通じた営農体制の確立～

1 活動のねらい

市原市加茂・柏野・田代工区では集落営農組織の設立に向けた話し合いを行っており、令和2年度から集落営農に関する勉強会等を行ってきました。今年度は集落営農組織の設立に向けて、先進事例等を学び、地区での話し合いをすすめることで営農体制を確立することをねらいとして普及活動を行いました。また、地域水田の状況を整理し、組織設立の必要性を耕作者や地権者と共有するため、人・農地プランの作成を支援しました。

2 課題の背景

市原市加茂・柏野・田代工区には水田が約100haあり、耕作放棄地はほとんどありません。令和2年度に耕作者48名を対象にアンケート実施したところ、耕作者の約7割が61歳以上でありそのほとんどで後継者がいないことから、将来的な耕作放棄地の増加が懸念されています。そのような中で、耕作放棄地を作らないようにするため、将来の農地の受け手となる集落営農組織設立を目指す動きがあり、令和2年度から集落営農組織の設立に向けた話し合いを行っています。

3 普及活動の経過・結果

(1) 人・農地プランの作成

市や土地改良区の担当者と連携し、人・農地プランの作成を支援しました。耕作者への今後の営農意向や後継者の有無、営農を続ける上での課題等について聞き取ったアンケート結果を集計、分析して課題を整理しました。また、営農組織の設立を検討するメンバーと話し合いをすすめ、将来的に耕作者が減少することを地域の耕作者に可視化できるように、白地図への年齢別の耕作者の色塗りを行い、1筆ごとの農地の状況を整理しました。これらの結果をもとに市原市、土地改良区、農業委員会、耕作者で話し合いを行ったことで、人・農地プランが作成されました。



写真1 人・農地プランの話し合い

(2) 営農体制の確立と組織づくり

集落営農組織の運営と米の加工をテーマとして先進地視察研修を開催し、地区の耕作者 12 名が参加しました。新規就農者を後継者として受け入れていける様な組織づくりをしたいとの意向があることから、視察先は 30 年以上運営している営農組織に依頼し、組織ができた経緯、運営方法、後継者を確保する仕組みづくり、補助事業の活用状況等について説明をしてもらいました。米の加工については、家族経営で後継者が加工部門を立ち上げ、だんごや揚げせんべいの加工を行う経営体を視察し、作業内容や工夫しているポイント等を話してもらいました。

組織の設立に向けて、視察研修先に加えていくつかの集落営農組織の運営方法を紹介し、組織の仕組みづくりを支援しました。

その結果、地域農業の発展と活性化に向けて、耕作放棄地の発生防止や地域の担い手となる後継者を育成していく機運が高まりました。そして、その受け皿となる集落営農法人の設立に向けて、任意組合「アグリ高滝営農組合」が立ち上がり、次年度から活動していく事となりました。



写真2 先進地視察研修の様子

4 今後の課題

設立直後の組織であり本格的な活動を行うのはこれからです。今後の活動を通じての課題の整理や今後の営農構想作成・実現を支援します。また、組織としての知名度を地区内で高めていき、離農する際に農地を任せてもらえるように、人・農地プランや農地中間管理機構の活用等も推進していきます。

5 担当者 市原グループ ◎小野 英吾、水島 莉那

6 協力機関 市原市、JA市原市